



湾ダフルしおがま・海体感会 2022

実施報告書

「千賀の浦カヌー体験」 実施報告



■実施報告

塩竈市内在住の親子を対象にカヌー・カヤック体験の海辺イベントを「千賀の浦カヌー体験」として2回実施しました。

企画段階では「千賀の浦カヌー体験」を全3回実施予定、内1回を「しおがま”なんでも”体感団」枠として予定をしていたが、「しおがま”なんでも”体感団」の中止に伴い、今シーズンは2回の実施となった。イベント2回の実施で親子28組延べ75名の市民が参加し、海辺でのカヌー・カヤック体験を楽しみました。

	参加者	大人	子供
千賀の浦カヌー体験 7月24日（日）	40	21	19
千賀の浦カヌー体験 8月6日（土）	35	16	19
千賀の浦カヌー体験 8月20日（土）	中止		
合計（人）	75		

事故・ケガの有無／イベント実施中の事故や熱中症などの発生はありませんでした。

新型コロナウイルス関連／イベント実施による感染の拡大はありませんでした。

スタッフ／スタッフは関係者および有志による参加を含めて、延べ29名にボランティア協力いただきました。スタッフも参加者と一緒にカヌー・カヤックに乗り楽しみ、イベントボランティアを通して海辺の楽しさを感じながら活動することができました。

■実施要項

千賀の浦カヌー体験

日程 / 7月24日（日）（順延なし）、8月6日（土）（順延なし）

時間 / 10:00-13:00

定員 / 各回 親子15組 40名程度

対象 / 塩竈市内在住の親子（幼稚園児以上）

参加費 / 1名につき 1,000円（体験料・保険料・軽食の実費相当額）

会場 / 塩釜港内 北浜緑地護岸親水護岸エリア

募集方法 / 市内小学校全校 児童へチラシ配布、応募多数の場合は抽選

申込方法 / googleフォーム、メール（問合せ時）

■募集結果の詳細

項目	日付	内容
募集チラシ配布	7月1日（金）	市教育委員会に持込、市内小学校へ配布依頼
申込受付 開始	7月4日（月）から	申込フォーム受付開始
申込受付 締切	7月10日（日）まで受付	11日0時 申込フォーム受付停止
抽選	7月11日（月）抽選	エクセル乱数による電子抽選
抽選当落連絡（メール）	7月12日（火）送信	

2日間の募集定数に対して、同一者の同日程の申込重複を除き合計122件と定員組数の4倍を超える応募があり、応募多数のため抽選を行いました。抽選は公平を期すため応募者リスト表からエクセル関数の乱数を使い、数値の上位15組を当選者としました。当選者30組には当選メールで当日要項を送付、落選となった92組には落選のお知らせをメールしました。

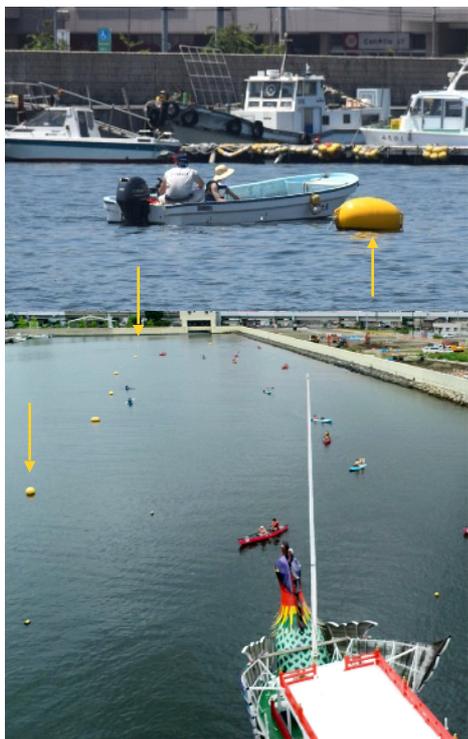
メール・電話によるお問い合わせは10件ほどありました（内容：申し込んだ日程の変更・人数の変更、見学可否など）。



■体験エリア／千賀の浦カヌー体験

塩竈市北浜緑地公園 親水護岸前の付近に浮き桟橋（2.5m x 90m）を設置し、体験ベースとしました。浮き桟橋は昨年時より18m延長しスペースを広く確保し、休憩時の日陰用パラソルを増やして快適な体験になるよう努めました。

体験ベースには船で渡り、渡し船の発着をくろしお北浜マリンベースから行いました。



保安艇が体験エリア内の安全を監視しました。風向きや船舶による引き波の接近などがあれば参加者に注意を促しました。黄色いブイを設置し体験エリアの区域を分かりやすくしました。初めてのカヌー・カヤック体験でも安心して参加できる体制で実施しました。



■安全対策

イベント実施を安全に進めるため、下記のことを行いました。

ライフジャケットの着用	ライフジャケットの正しい着用の仕方と効果を説明し、イベント中は参加者スタッフともに常時着用しました。
船上の注意	船艇への乗降時の転落や操船時の沈した場合の対応などを参加者に説明し、スタッフの対応を確認しました。
体験エリア内の注意	浅瀬や岩場などの怪我する恐れのある場所の確認、航行する船への接近の注意喚起、浮桟橋上のロープなどつまずき易い箇所の確認。
海上の保安艇	海上安全の監視と救助役を務める船を出しました。
ブイの設置	体験エリアを示すブイを設置し、参加者のエリア内での体験を指示しました。
風向きへの注意	風向きによってカヌーカヤックの船体が流されることの注意を行いました。
救急箱	ケガの応急処置のための救急箱を準備。
熱中症対策	パラソルによる日陰の設置（昨年時よりも増やしました） 水分補給のため飲み物を飲むことを声がけし、飲料を配布しました。

・当日の事故はありませんでした。

操船を教えるインストラクターは、事前にインストラクター検定の講習を受けた有資格者が担当し、参加者への操船レクチャーの他にも体験イベントの安全面での対策を指導及びサポートしました。

体験エリア内の海上の状況を保安船2艇が監視を行い、参加者の操船を誘導しました。

■感染防止対策

新型コロナウイルスの感染防止の対策に下記のことを行いました。

- ・ イベント実施による新型コロナ感染は確認されておりません。

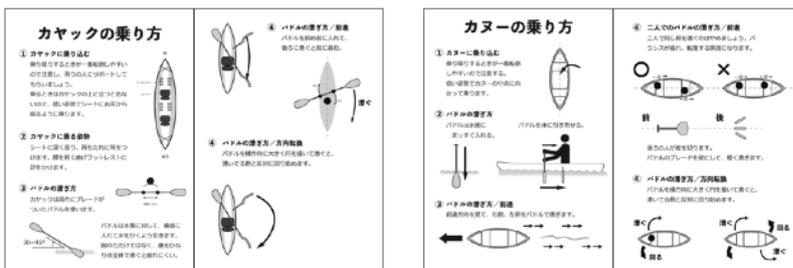
検温	当日の受付で参加者およびスタッフの検温を行いました。 (熱のある方はいませんでした。)
マスクの着用	参加者およびスタッフのマスク着用をしました。 海上では安全のため、マスクは外しています。
アルコール消毒の準備	当日受付のほか、各所にアルコール消毒ボトルを設置し、手洗いと消毒ができるようにしました。
参加者の場所の指定	陸上の待機場所、桟橋上の待機場所を番号で指定し、参加グループごとの距離を離すように心掛けました。

■インストラクター

インストラクター担当のスタッフが安全に操船体験ができるように、参加者にカヌー・カヤックの扱い方をレクチャーし、体験をサポートしました。



カヌーカヤックの操船を教えるインストラクターは、JSCA（日本セーフティーカヌーイング協会）がガイドラインを定めているインストラクター検定を合格した有資格者が担当しました。インストラクターの指導により、体験中の事故の防止、適切な救助の方法、応急救護など、より安全なイベント実施に向けた準備が行われました。



カヌー・カヤック体験の前には参加者に向けて、乗り降り、パドルの持ち方、漕ぎ方（前進、後退、旋回）のレクチャーを行いました。

■カヌー・カヤックの体験

特設した浮棧橋からカヌー・カヤックに乗り、体験エリア内を自由に操船しました。



カヌー・カヤックに初めて乗る参加者がほとんどの中、カヌーとカヤックのそれぞれの乗りごごちや漕ぎ方の違いを体感し、しばらくすると乗りこなすことができるようになりました。親子で楽しみながら体験は進み、後半には、操船に慣れた子供は一人でカヌーやカヤックに乗れるまでになりました。





浮桟橋上は体験ベースとなって、参加者の休憩やカヌーからカヤックへの乗り換えに利用しました。船艇への乗り降りの際には、転落しないようにスタッフがサポートに付き事故の防止に勤めました。



暑さ対策として、日陰となるパラソルを昨年より数を増やし設置しました。冷やした飲み物を提供するクーラーボックスと手洗いする水を各所に配置していました。



SUP（スタンドアップパドル）体験も行い、カヌー・カヤックとは違った乗り心地を楽しみました。



昼休憩時には軽食（サンドイッチなど）と飲み物を提供し、桟橋上で昼食をとりました。手洗い用の水とアルコール消毒を配置していたので衛生面で心配という声はありませんでした。体験中のトイレは桟橋から陸側クラブハウスまで船で送迎しました。



体験の最後には希望者を募ってレースを行いました。1位から3位までの順位には表彰状と景品が贈られました。

最後に参加者にはアンケートを記入いただいて、カヌー体験は終了となりました。

■生き物観察

海辺にいる生き物を捕獲し観察しました。



カニやエビ、アイナメ・メバルといった魚、大きなアナゴも捕まえることができました。

すぐ近くの海にはいろいろな生き物がいることを知ってもらい、ふるさとの海を身近に感じる機会となり、楽しむことで海辺の環境への関心を高めることができました。

観察した生き物は子供たちの手で海にリリースしました。

今シーズン捕まえた生き物

- ・アナゴ
- ・メバル
- ・アイナメ
- ・ボラ
- ・エビ
- ・カニ（イソガニ、ガザミ）



「ふるさとの海」の海辺を身近に感じることで、地域の海辺に興味関心を引き出し、海の楽しさや環境の大切さを体験を通して学ぶことができました。

■関係団体

主催 湾ダフルしおがま・海体感会実行委員会

共催 塩竈市

後援 一般社団法人日本マリン事業協会東北支部 南地区分会

塩竈市教育委員会

東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所

塩釜ロータリークラブ

浦戸諸島をサポートする会

BAYWAVE 78.1FM

塩竈市観光物産協会

塩釜商工会議所

塩釜商工会議所青年部

松島湾アマモ場再生会議

協賛 一般社団法人セブンイレブン記念財団

くろしおフィッシングクラブ

(株)くろしお北浜マリンベース

塩竈海感謝祭実行委員会

塩竈カジキ釣り大会実行委員会

東北重機工事株式会社

東北ドック鉄工株式会社

(五十音順)

企画実施にあたり多くの皆様にご支援ご協力いただきました。誠にありがとうございました。

また、ボランティアスタッフとして、松島湾アマモ場再生会議、塩釜商工会議所青年部、塩竈市市役所職員有志の方々、市民有志の方々にイベントの運営のサポートをしていただきました、ご協力ありがとうございました。

湾ダブルしおがま・海体感会実行委員会

連絡先

主管事務局

所在地／ 〒985-0003 宮城県塩釜市北浜4丁目71番10号 くるしお北浜マリンベース

電話／ 022-365-3220 FAX／022-365-3244

メール／ takayama@kuroshiomarine.co.jp

事務局長／ 高山朋子

イベントプロジェクト事務局

電話／ 080-5221-0746

メール／ wonderfulshiogama@gmail.com

担当／ 大沼剛宏

■今後の展望

昨年に引き続き「千賀の浦カヌー体験」の海辺イベントが開催でき好評をいただきました。コロナウイルスの流行から2年半が経ち、徐々にwithコロナ環境で社会が動き出してきました。ただその2年半の間に遊びを通して様々なことを体験し学ぶはずだった子供たちは、その機会を失ってきていました。

地域の海に親しむこのカヌー体験は、塩釜の海辺を楽しめる貴重な機会として子供たちに楽しんでもらえるように実施してきました。参加した方から「海に触れ合う機会があって良かった」と声をいただきました。このカヌー体験を通して、ふるさとの海の魅力を感じてもらい、海辺の環境に興味と関心を持って地域愛を育むことに繋がればと考えています。

海辺の魅力は塩釜の「資源」です。塩釜の資源となる「海辺」をこの地域に暮らす人の憩いの場所として活用し、ふるさとの海辺に親しむ人たちを増加させる「コンテンツ」づくりを行なっていきます。

カヌー・カヤック体験は海辺の魅力を伝えるマリンレジャーとして、市民が定期的に海辺を訪れる入り口になります。参加者の皆さんから次回開催の期待もいただいています。

- ・ 来年以降の定期的な開催
- ・ 継続的な開催のための運営体制づくり
- ・ 海辺の魅力を伝えるコンテンツの提供

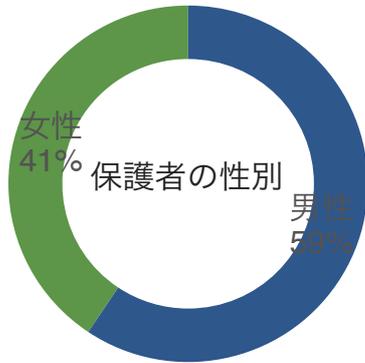
を今後進めていきます。

市街地沿岸の公園整備も進み、市街地・公園から連携した海辺で遊べるコンテンツは、海辺の魅力をアップするだけでなく、市街地や公園を含む塩釜地域の魅力アップにつながると考えられます。

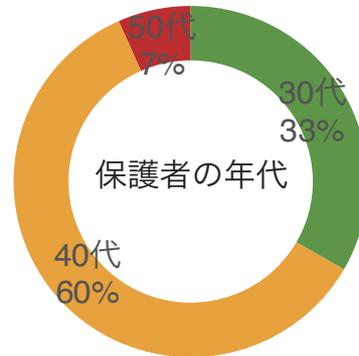
市民にはふるさとの海を「私たちの海」と意識してもらい、海辺があることの楽しさを感じてもらいたいと思います。そして仙台圏に暮らす人たちのふるさとの海が塩釜の海辺になるように、沿岸のエリアー帯となる「コンテンツ」を充実させていく取り組みを行います。

■参加者アンケート集計

Q1-参加者の構成比（保護者）

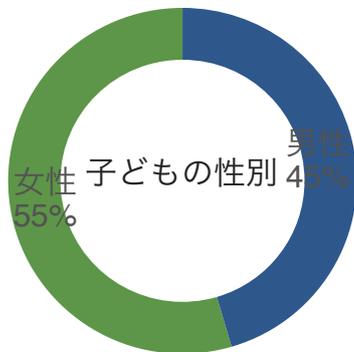


● 男性 ● 女性 ● 無回答



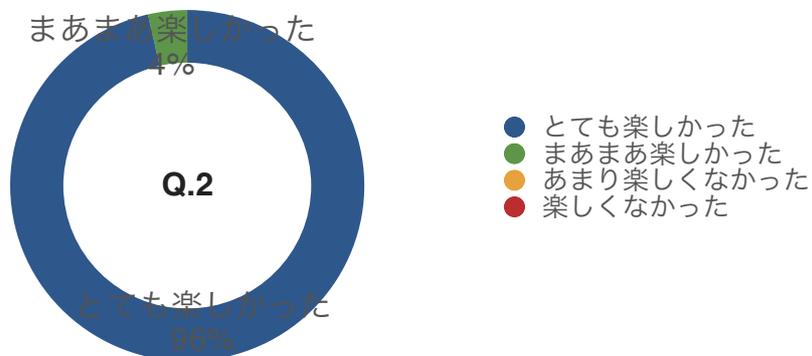
● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代 ● 60代以上

Q1-参加者の構成比（子ども）

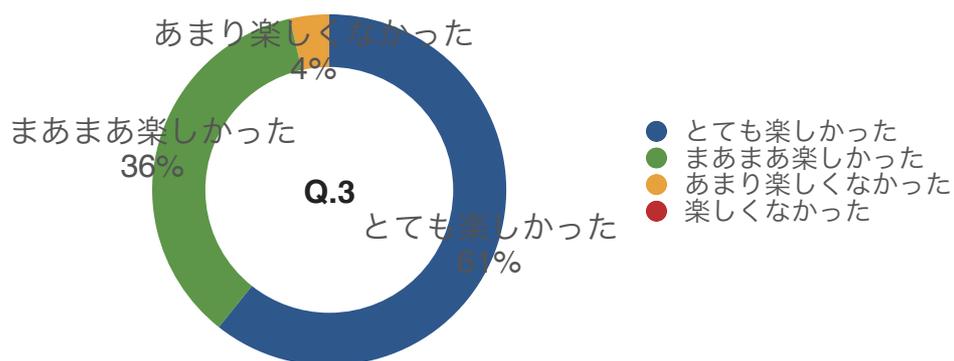


● 男性 ● 女性 ● 無回答

Q.2-カヌー・カヤック体験は楽しかったですか？

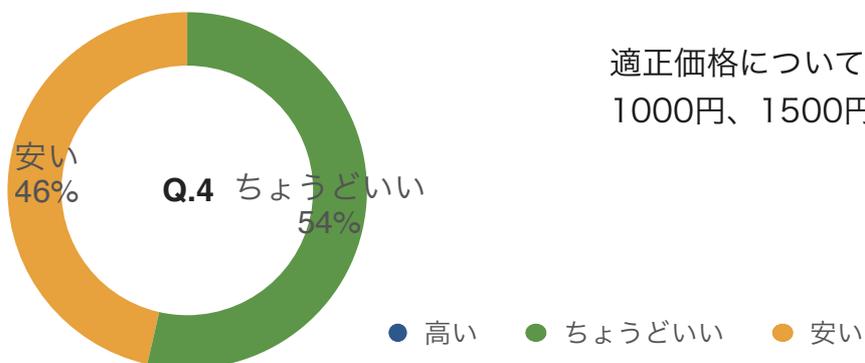


Q.3-海の生き物観察は楽しかったですか？



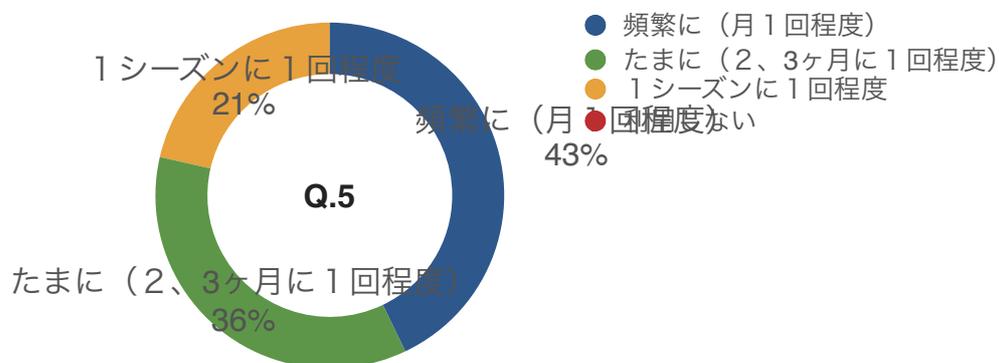
Q.4-参加費についてどのようにお考えですか？

(今回の参加費1,000円／体験料・保険料・軽食費の実費相当額)



適正価格について、
1000円、1500円、2000円、3000円など

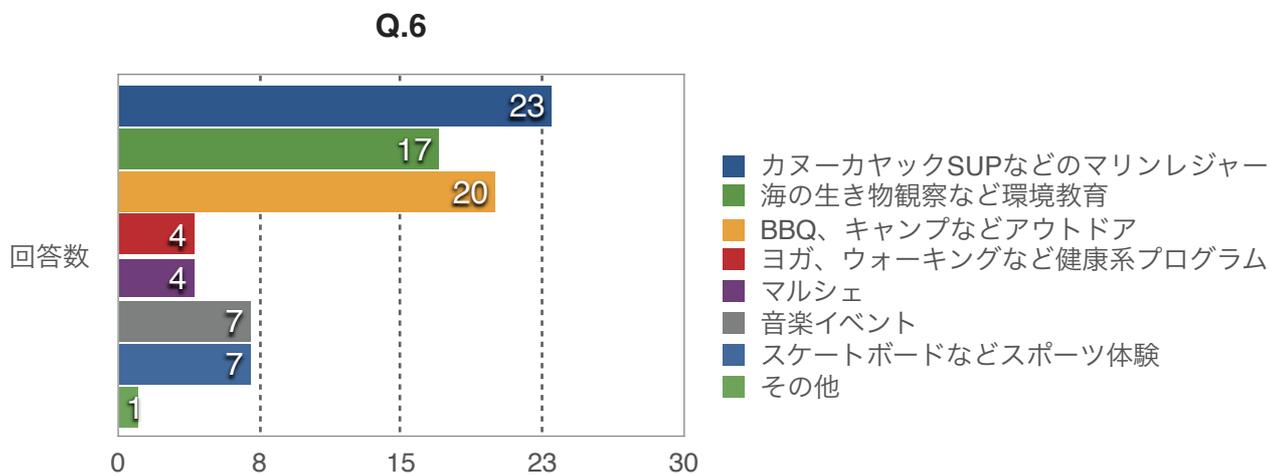
Q.5-カヌーカヤックなどマリレジャーが体験できる場が常設されたら、日常的に訪れたいですか？（期間は5月から10月を想定しています。）



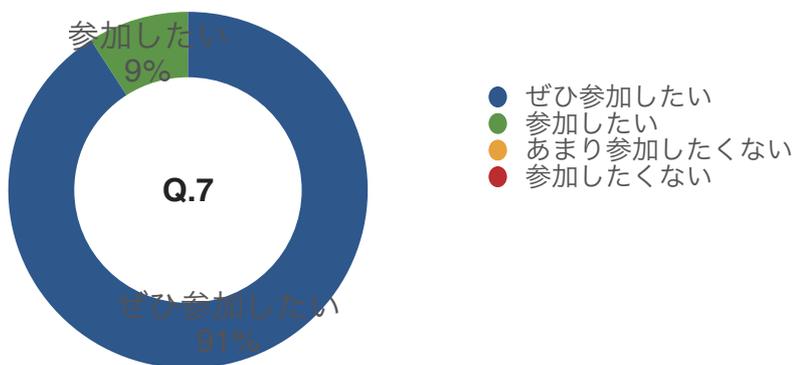
その理由

- ・海が好

Q.6-今後、周辺の公園と一体的に活用し、遊びの場や機会の提供を考えています。どのような遊びに興味がありますか？（複数回答可）

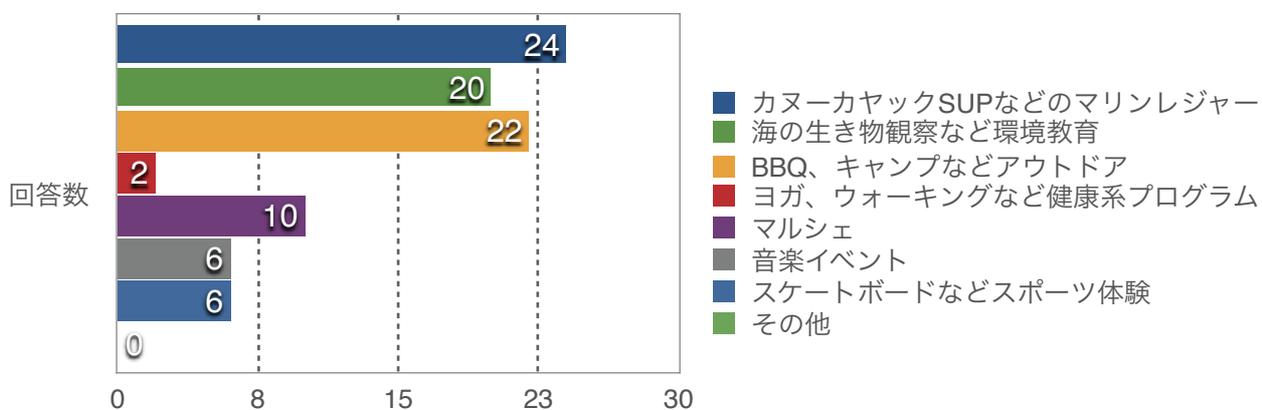


Q.7-今後、浦戸諸島における島巡りなどマリンレジャーを提供していきたいと考えています。
どのような遊びに興味がありますか？（複数回答可）



Q.8-今後、浦戸諸島を活用し、遊びの場や機会を提供していきたいと考えています。 どのような遊びに興味がありますか？（複数回答可）

Q.8



「Q.9-感想や要望などがありましたら、自由に記述してください。

- ・ スタッフも優しく、自由に過ごせた。食事ボリュームがあり満足した。
 - ・ 生き物観察をもっとしたかった
 - ・ 鳳凰丸龍王丸を近くで見れた
 - ・ 海やマリンスポーツを身近に感じて、趣味や特技に繋がってほしい
 - ・ 家族で楽しい時間を過ごせた
 - ・ 釣りもやってみたい
 - ・ 子供が楽しんでいて、下の子が小学生になったら連れてきたい
 - ・ とても貴重な体験だった
 - ・ 常設されたらぜひ紹介したい
 - ・ 塩釜の観光につなげてほしい
 - ・ 来る前は子供は海が怖いといってなかなか行こうとしなかったが、体験が終わった後は楽しかったと言っていた。海に対して親しみを持ってくれたのではないかな。
-